

道写協

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)
<http://www.doshakyo.org/>

第144号

第68回写真道展に向けて



審査委員長 田嶋 英夫

道内最大規模の写真公募展「写真道展」
68回を迎えました。

昨年は、コロナの影響で急遽審査体制を
変更しましたが、プロ写真家の協力も仰ぎ
ながら無事に審査を終えることができました。

68年間の長期にわたりコンテンツを継続
できたのも、全道の写真愛好家の写真に対
する熱意の表れと察します。

伝統ある「写真道展」の審査委員長の指
名を頂き、責任の重さを感じつつ、次世代
に向けて写真文化の向上に微力ながら貢献
できたらと思っております。

写真道展の大きな特徴は、各部門1席受
賞者には「大臣賞」受賞の栄誉が与えられ
その中から「第68回写真道展大賞」の最高

賞が授与されます。

審査会は2日間にわたり、20数名の審査
会員にプロの写真家も加わり厳正かつ慎重
な雰囲気で行われます。

今回から応募点数が、各部門「5点」に
なります。全体の応募点数の減少が予想さ
れますが、応募者の作品の選択肢も試さ
れ、さらに審査員の視点の新鮮さも試さ
れ、入賞作品のレベルアップも期待されま
す。

【第一部】自由の部

デジタルの普及で誰でも自由に失敗なく
撮影することができるとは、さて「写っ
た！と撮れた！は違う！」との言葉があり
ます。意味をよく考えて頂きたいのです。

光があり、陰があり、動きがあり、笑顔が
あり、感動を素直に表現する事が大切で
す。数多く撮影する事で見えてくるものが
あります。自由の部だけが撮影者の視点の
新鮮さを表現できる部門なのです。審査員
の考え方を考える様な新たな表現はきつと
あります。

今年、斬新なアイデアにあふれた一枚
を見せて頂きます。

【第二部】観光・産業

コロナの影響を一番反映しているのがこ
の部門と思います。テーマの大きな部門と
思われますが、今こそ大きな変化に翻弄さ
れる人々の生活があります。広い北海道だ
からこそ前向きに生きる人たちがいます。

観光業、農業で力強く生きる姿、これから
の農業、漁業に携わる若者の姿。現場に飛
び込んで、生き生きとした働く姿を表現し
て欲しい。そんな身近な人たちの優しく
ヒューマンな作品が今が一番必要です。技
巧に走らず、見る者の心を温かくする力強
い作品作りにチャレンジして下さい。

【第三部】ネイチャーの部

北海道は四季の変化も大きく、多くの傑
作が生まれています。それだけに被写体が
偏りがちで、突出した作品作りが難しい部
門です。自分でこれだ思う被写体を見つ
けたなら、根気よく撮影し続ける事が大切
です。必ず期待に込める女神が微笑みます。

これまでの3部の大賞作品は「継続して撮
影された作品」から誕生しています。3部
はレタッチが禁止されています。ネイチャー
部門は自然界の色彩を自覚して、忠実に再
現することを心掛ける事が入賞の近道です。

【第四部】学生の部

デジタル世代の学生はカメラの使い方が
素晴らしい。思い切った構図、被写体など
大人の意表を突く表現で迫ります。結果も
大切ですが、テーマを絞ることも表現の幅
を広げます。テーマが決まったらひたすら
シャッターを切る。自分の身の周りから、
あなただけの一瞬の感動世界を目指して下
さい。審査員が特に一番興味を持ちながら

審査するのも学生の部です。



【終わりに】

近年、写真の概念が大きく変容していま
す。スマホの普及により、誰でも簡単に写
真撮影、動画撮影ができ、多くの人たちと
作品が共有される時代です。改めてプリン
トされた「作品」の意味を考えたい。一枚
の作品ら受ける感動、意味、撮影者の視
点、日々の生活からの一瞬を写し撮る。
「写真映え」を願い、「いいね！」を期待し
ての作品が流通しますと、現実離れた色
彩、レタッチ処理などが目立ち、自然の色
彩や明暗の微妙な表現まで失われます。表
現の自由は否定しませんが、写真道展は写
真本来の表現にこだわり、追求していきま
す。人まねでなく審査員の心を打つ会心の

1枚を期待しています。

写真歴

- 1947年 新ひだか町生まれ
- 1979年 北海道写真協会入会
- 1991年 無審査会員奨励賞
- 1993年 北海道写真協会審査会員推挙(審査会員26年)
- 2019年 北海道写真協会副会長

主な全国展入賞歴

- 全国二科展 国際サロン 全日本写真展 日本の自然写真展(複数回)
- その他
- 札幌市、苫小牧市他各市町村にて個展35回開催
- 三石町 写団 写楽主宰
- 三石町文化賞 日高管内地域教育

会員の皆様へ

第68回写真道展への応募のお願い

道写協第67回展では、会員応募人数は、前年度より18人減少でした。一般の応募人数は6人の増加でした。応募人数の総数は、19人減少でしたが、第68回写真道展では、会員の応募人数が増えることを強く願っています。

昨年度全員応募した4支部にならって、特に会員数の多い支部の参加人数が増えることを期待しています。

コロナ過の影響で撮影もままならないかと思いますが、このような時だからこそ会員の皆さんの積極的な参加で、活気ある写

真活動の姿勢を示して頂きたいのです。きっと、多くの皆さんの活力と希望に繋がるはず。そのことが北海道写真協会の活性化に結びつくことを確信します。会員一人ひとりの積極的な応募を待っています。

お知らせ

★新会友

- 加藤 憲秋 (恵庭支部) 9月承認
- 田中 康夫 (恵庭支部) 9月承認
- 木村 実 (浦河支部) 10月承認
- 宗山 和夫 (函館支部) 10月承認

第68回 写真道展巡回展日程

岩見沢市民会館 展示室	5月28日～5月30日
室蘭市民美術館	6月3日～6月6日
苫小牧市文化交流センター	6月10日～6月13日
羽幌町立中央公民館	6月16日～6月20日
名寄市民文化センター	6月24日～6月29日
釧路市生涯学習センター	7月14日～7月18日
別海町中央公民館	7月29日～8月1日
三笠市民会館	7月7日～7月9日
市立小樽美術館	7月13日～7月15日
旭川デザインギャラリー	8月20日～8月23日
根室市総合文化会館	9月10日～9月13日
北網圏北見文化センター	9月22日～9月26日
函館市芸術ホール	11月25日～11月28日
網走市立美術館	12月25日～1月23日

会員の皆様をはじめ多くの皆様方にご覧いただきますよう、ご案内いたします。

新審査会員「私の抱負」

★壬生 賢哉 (苫小牧)



このたび審査会員に認定され、大変光栄です。毎年、入選するかどうか気がになり、審査会員になることなど、夢のまた夢でした。カメラを持って、新しい発見に胸を躍らせてきたことが、思いがけない結果になり、今は素直に喜んでいますが、作品を審査するには今だ技量不足ですが、よき審査会員を目指し、日々精進していきたいと思っています。

★山本 隆晟 (札幌)



支部の推薦、本部の承認を頂き、審査会員となることができました。長年の仲間、先輩に感謝です。例会等、人の集まりを戒めるコロナ禍で、組織の活動・維持・発展をどう工夫して行くかが目下の焦眉の急だと思います。しかし、音楽、演劇等他の文化活動に比べ、写真の撮影や展示等は、「密」を避けられるのを幸いとして前向きに捉えていきたいものです。どうぞよろしくお願い致します。

北海道写真協会 入会のご案内

本道在住のカメラ愛好家の親睦と技術の育成をはかるための道写協です。広く全道の写真愛好者の入会をお待ちしています。入会ご希望の場合は、最寄の支部へ「入会申込書」と入会金・本部会費・支部会費(各支部で異なりますのでお問い合わせください)を添えてお申し込みになれば会員の資格を得ることができます。



〈支部所在地〉札幌・函館・旭川・釧路・小樽・余市・室蘭・帯広・北見・根室・夕張・滝川・深川
芦別・岩見沢・恵庭・栗山・オホーツク(湧別)・留萌・中標津・苫小牧・浦河・上川・道北(下川・名寄)
浜益・平取・奈井江・三笠・紋別・留萌潮
●入会金1,500円/本部会費2,000円●事務局(道新文化事業社内) TEL011-210-5735 FAX011-207-3939
ホームページ <http://www.doshakyo.org/>

フォトエッセイ

『私の写真人生』

根室支部 辻ノ内 弘

私が初めて「写真機」という魔物を手にしたのは、終戦2年後の小学校5年生の時、父親の東京土産のママヤシックスかミノルタシックス判で、好奇心旺盛の年頃の時代。

其の頃、父の従兄弟になる人が、小さな営業写真屋をしていたので、現像、定着等を教えてもらい、このことが、撮ることの面白さの始まりだった。でも、定着液の臭いは好きになれず、ずるずる。そのうちカラーにそしてリバーサル。人生も流れて根室に。仕事の合間とか休日に撮ったフィルムを向陽堂カメラ店に現像に出した時、社長で、カメラの名手であった江戸勝男先生に絆され、その気になり、道写



協支部会員に入会させてもらいました。

当時会員数は二十数名だったと思います。初出展は22回展です。見事落選。期待して

ただけ落胆も大きかったのを思い出します。その後入選、落選を繰り返して、最高賞は3席というという惨めな道展結果です。この間、江戸勝男先生から「カメラ雑誌の月例をしてこなかったのが悔やまれる」と何回も聞かされ、意を決して石の上にも3年という諺があるとおり、私なら10年だなど。挑戦するなら、一流のプロでプロ二判でと秋山庄太郎先生と決め、10年頑張ろうと、毎月5点で始めました。

その後、大判は無くなりネイチャー部門に変わり、10年無事続けることができました。結果は、良くも悪くも無し。

5位、4位、5位。その間、地方の友人から、毎年全国二科展の応募用紙が届けられるので、軽い気持ちで出品したところ、落選もあったが、推薦8回、11回で会友。会友9年で訳あり退会。



この間、NHKニューフロンティアフェスティバル写真展(丸井今井)参加。NHK北海道ビジョン「ニムオロ」全国放送発表、平成8年JAL機内誌「根室半島」表紙他8点。個展を札幌、根室、トドワラギヤラー他多数。北海道二科賞2回、その他多数。

『幻の群来』

旭川支部 阿部三重子

上川盆地に住む私にとって、夕方に西色に染まる夕映えを見ることは、明日の晴れを確信する占いのようなもので、気象条件が揃った時に表れる夕日の贈り物です。日本海沿岸の日没後数十分だけ空が赤く染まり、遙遠くに、青くくつきりと利尻の島影が表れる。その光景が見たくて、旭川から何度車を飛ばしたことでしょうか。日本海沿岸の、小平の花田蕃屋と網に掛かってキラキラ光るニシンのオブジェが目に入り、土地の人々が、期待を込めて過去に遡り、花田蕃屋が象徴する、ニシンの群来を待ち望んでいるのだろうか。作品のイメージがいつの間にか頭から離れなくなりました。

昨年8月中旬夕焼けの予感があり232号線を北にひた走り、小平辺りで日没。空は次第に色濃く染まり始め頭から離れなかった夕焼けと鱈番屋のイメージを遂に撮影することができま

した。

わくわくしながらパソコンで編集し思い描いていた群来の幻である作品が仕上り夢が実現したのでした。

会友展準奨励賞が決まったとの知らせを頂き、信じられない気持ちと同時に、長年温めていた構想の写真が認めて頂けたという喜びで心が満たされました。

カメラもフィルム時代からデジタルに変わり、ミラーレスへと進歩はとどまるところがありません。脳年齢と探求心体力維持の目標をモチベーションに、我が道はまだ先があるのかと自問自答していますが、いまは、新型ウイルス感染予防を第一に、我が身をいたわりつつ邁進してまいりたいと思いません。



支部例会成績

札幌 支部長 難波 江

▽10月例会(16日) 加賀谷重雄(審査会員選考)



10月例会2位「菱空とも仲良し」
カラー 林 繁造

- ①梅澤勇二
- ②林繁造
- ③掛村一憲
- ④渡辺勝
- ⑤安田敏彦
- ⑥見野則幸
- ⑦米澤三千代
- ⑧片岡真弓
- ⑨脇田健司
- ⑩飯高光紀

▽11月例会(20日) 写真家山本純一(選考)



11月例会「足もとの晩秋」
カラー 今 明美

- ①梅澤勇二
- ②今明美
- ③安田敏彦
- ④林繁造
- ⑤浦崎穀子
- ⑥寺島昭三
- ⑦落合英男
- ⑧掛村一憲
- ⑨飯高光紀
- ⑩渡辺勝

栗山 支部長 黒田幸則

▽6月例会(12日) 審査互選

- ①黒田幸則
- ②中島武士・齋藤優子
- ③中島武士2点
- (入選) 齋藤優子・中島武士・黒田幸則2点

▽9月例会(11日) 審査互選

- ①中島武士
- ②齋藤優子2点
- ③齋藤優子3点(入選)
- ④中島武士4点・齋藤優子2点

三笠 支部長 伊藤修身

▽9月例会(25日) 加賀谷重雄(審査会員選考)

- ①谷内純哉
- ②古平文男
- ③高橋英昭
- ④河合外志
- ⑤金武紀雄
- ⑥伊藤修身

(9月25日) 加賀谷重雄(審査会員選考)



写真コンテスト1位「突風」
カラー 谷内純哉

- 推薦 谷内純哉
- 特選 古平文男・金武紀雄
- 準特選 高橋英昭・澤田住子・伊藤修身
- 入選 谷内純哉・河合外志・高橋英昭・石橋昭次郎ほか

小樽 支部長 高橋省三

▽9月例会(9日) 増田輝敏(審査会員選考)



9月例会1位「つかみ取り」
モノクロ 北 宏保

- ①北宏保
- ②小林好江
- ③一條周一
- ④根本辰男

釧路 支部長 石川 隆

▽11月例会(12日) 片村洋市(審査会員選考)



11月例会1位「ゆずりあい」
カラー 橋本憲一

- ①橋本憲一
- ②中嶋淳一
- ③佐々木せつ子
- ④松坂正彦
- ⑤松本紀幸
- ⑥鈴木啓司郎

室蘭 支部長 佐々木 昇

▽9月例会(27日) 中野潤子(審査会員選考)

▽11月例会(12日) 馬場和美(審査会員選考)

- (特選) ①池永靖子
- ②⑤小山満
- ③佐藤繁雅
- ④吉田清治郎(入選)
- 白田忠雄・小山満・山本義則2点
- 吉田清治郎・宮野和子ほか

旭川支部 写真展開催

例年8月開催の支部展を新型コロナウイルス感染拡大のため、十一月十七日(二十二日)まで開催、作品八十点を展示しました。



今年は新型コロナウイルス感染により大変な年でしたが、感染に十分配慮し、マスク着用手の消毒は勿論のこと、体温測定、ボールペンの消毒、受付にはビニール幕で仕切り、来場者の皆様全員に記帳のお願いをし、ご来場いただきました皆様方には、快くご協力をいただき、旭川で急に新型コロナウイルスが大変な期間中にも関わらず約300人のご来場があり、来場者からは「素晴らしいです」「さすがが圧巻の写真展ですね」と言われ、盛況のうちに終了しました。

岩見沢 支部長 鈴木佳夫

▽10月例会(14日) 審査互選

- ①岩井郁美
- ②松本久子
- ③⑤中川昌子
- ▽11月例会(11日) 審査互選
- ①巖田祥健
- ②木村克己
- ③⑤鈴木佳夫
- ④松本久子
- ⑤上口建作
- 中神由美子・岩井郁美・伊藤博章

旭川 支部長 白鳥敏昭

▽10月例会(8日) 田本實(審査会員選考)



10月例会1位「ミステリーゾーン」
カラー 森田正義

- (特選) ①⑤森田正義
- ②③上平秀美
- ④添田裕子
- (入選) 佐藤祐子
- 上平秀美
- 小山満2点
- 森田正義
- 白田忠雄ほか

厳しい時期ではありましたが、会員全員が手応えと、満足感を感じた写真展となりました。

編集後記

コロナ禍で大変なことが多々あった今年も、残り少なくなりました。会報発行に当たり写真など、多くのご協力を頂きありがとうございます。明るく、元気で希望のある新しい年になりますように。(田本・香取)